

$V7/V$ $V7/I$ $V7/VI$ $VI-7$
 $D7$ $G7$ $E7$ $A-7$

セカンダリー・ドミナントも代理のドミナントが使用できます。

ローマ数字	呼び方	説明
sub V7/II	サブファイブ・セブン・オブ・ツー	II-7に半音進行するドミナント
sub V7/III	サブファイブ・セブン・オブ・スリー	III-7に半音進行するドミナント
sub V7/IV	サブファイブ・セブン・オブ・フォー	IVMaj7に半音進行するドミナント
sub V7/V	サブファイブ・セブン・オブ・ファイブ	V7に半音進行するドミナント
sub V7/VI	サブファイブ・セブン・オブ・シックス	VI-7に半音進行するドミナント

$sub\ V7/II$ $II-7$ $sub\ V7/III$ $III-7$ $sub\ V7/IV$ $IVMaj7$
 $E\flat7$ $D-7$ $F7$ $E-7$ $G\flat7$ $F\sharp Maj7$

$sub\ V7/V$ $V7/I$ $sub\ V7/VI$ $VI-7$
 $A\flat7$ $G7$ $B\flat7$ $A-7$

sub V7 / III は IV7 (ブルース・コード)、sub V7 / V は \flat VI7 (ブルースでよく現れるサブドミナント・マイナー・コード)、sub V7 / VII は \flat VII7 はサブドミナント・マイナー・コードの性格を併せ持っています。

分数コード：分数表記になっているものや bass on~, on~ になっているものを分数コードと呼びます。分数コードには①分子がコード（三和音のものが多い）分母がベース音というものや、②分子、分母ともコードというポリ・コード（複数の和音が同時に奏されるもの）があります。①のタイプの分数コードには分母が分子のコードのルート以外の構成音になっている転回形の分数コード、分母が分子のコードの構成音ではないハイブリッド・コードと呼ばれる2つのタイプがあり、②は Voicing (和音の積み立て方) でよく現れるものです。アナライズの記し方は①のタイプは分子をローマ数字で、分母をその構成音の度数で記します。

コード → C/G ← ベース音

コード → C ON G ← ベース音

コード → C BASS ON G ← ベース音

ローマ数字による
アナライズ
コード → I / 5th ← ベース音

コードの
第5音

分母が分子のコードの構成音ではないハイブリッド・コードは基となるコードでアナライズするか、転回形の分数コードのように度数表示を記します。

F/G V7sus4 / I あるいは IV / 9th

ポリコードの例としては下のようなスケールから抽出するものがあります。ヴォイスングの一つのタイプなのでアナライズはありません。

ペダル・ポイント：コード進行と関係なく、その時点のキーのトニック音やドミナント音を提示することにより、新しいサウンドの緊張関係を生み出すテクニックです。

トニック・ペダル

トニック音の提示

ドミナント・ペダル

ドミナント音の提示

ペダル・ポイントのアナライズはトニック・ペダル、ドミナント・ペダルの提示と範囲を提示するだけでローマ数字に影響はしない。

II-7 (V7/I) III-7 \flat III dim7 II-7 subV7/I I Maj7
 D-7 G7 E-7 $E\flat$ DIM7 D-7 D \flat 7 CMaj7

Tonic Pedal

II-7 (V7/I) III-7 \flat III dim7 II-7 subV7/I I Maj7
 D-7 G7 E-7 $E\flat$ DIM7 D-7 D \flat 7 CMaj7

Dominant Pedal

ライン・クリシェ：同一コードが続く場合、コードに変化を付けるためコードの性格を変えないような構成音等を順次進行でつなげていくテクニック。クリシェとは“よく使われるもの（慣用句）”という意味で、順次進行でつなげていくパターンが何種類かあります。

マイナー・コードで

C- C-(MA7) C-7 C-6 C- C-(\flat 5) C-6 C-(\flat 5)

メジャー・コードで

C C(\flat 5) C6 C(\flat 5) C CMaj7 C6 CMaj7